

「**すこやか**づくり」のシステム工法／自立と介護の家づくり

有限会社 ケアライフ・システム

京都市下京区中堂寺南町 105-701

Tel (075) 323-0330

Fax (075) 200-1034

<http://www.care-life.info>

(2007/新年号)



新春を寿ぎ謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

皆様には穏やかなお正月を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

今年も各地の神社仏閣には大勢の参詣・参拝者が初詣に訪れたと報道されていました。

そこで、今回は建築や介護・健康の話題からは少し離れますが、お正月にちなんだこんな特集を掲載してみました。

諸説ありますのでご参考程度に、気楽に読んでいただければ幸いです。

皆さん、年末年始の飲み過ぎ・食べ過ぎ解消には、自分に合った適度な運動と規則正しい生活を。



鏡餅・しめ飾り



鏡餅。京都では親しみをこめて“お鏡さん”と呼びます。

鏡餅という名称は、昔の鏡の形に似ていることからきています。昔の鏡は青銅製の丸形で、神事などに用いられるものでした。三種の神器の一つ、八咫鏡を象ったものとも言われています。

鏡餅が現在のような形で供えられるようになったのは、家に床の間が造られるようになった室町時代以降のことのようです。武家では、床の間に具足（甲冑）を飾り、その前に鏡餅を供えました。鏡餅には、讓葉・熨斗鮑・海老・昆布・橙などを載せるのが通例となりました。今日では、三方に半紙を敷き、その上に裏白（うらじろ、羊歯）を載せ、大小2つの餅を重ね（地方やお供えする場所によっては3段に重ねたり、片方を紅く着色して縁起が良いとされる紅白にしたりする）、その上に串柿（十個の柿の両端二個づつを少し離し、外ニコニコなか睦まじく）・干しするめ（元は熨斗鮑）・橙（代々栄える）・昆布（子産む・よろこぶ）を飾るのが一般的です。

飾り始める時期：鏡餅を飾るのは12月28日が最適とされます。「八」が末広がり（日本では良い数字とされている）からです。逆に12月29日は、日本では「九」が「苦」につながるのを避けるべきとされています。お餅つきも苦をつくと言って嫌います。12月30日はきりの良い数字なので悪くないと考えられます。12月31日に飾るのは「一夜飾り」として忌避されます。



鏡開きの日：地方によって違いますが、一般的には1月11日とされています。それまでは飾り続けた状態でよいと考えられますが、最近は乾燥やカビが生えるのを嫌って早く鏡開きをする家庭も多くなってきました。

※神様にお供えしたもので、包丁などで「切る」行為は礼を欠くとか、武士の切腹を連想して縁起が悪いとかの意味で、手で砕いたり木槌などで砕き割ったりするそうですが、砕き割るのも結構礼を欠いているし決して縁起が良いとも思わないのです。が…。



注連（しめ）飾りは、年（歳）神様をお迎えしお祭りするために飾られます。

形は地方によって様々ですし、最近の住宅事情に合わせて大きさや形も多種多様になってきています。裏白（後ろ暗いことのない）、讓葉（新葉の成長後に旧葉が落ちて代を譲る）、橙などの縁起ものをあしらいます。



しめ縄（占標）は結界を意味し、外から災いが入らない清らかな所をあらわします。

縄の材料は刈り取って干した稲藁で、稲作文化とかかわりの深い風習だと考えられます。天照大神が天岩戸から引き出された際、二度と天岩戸に入れないよう太玉命がしめ縄（「尻久米縄」）で戸を塞いだのが起源とされています。

朝鮮中南部にもクムジュル（禁縄）というよく似た風習があるそうです。

七福神



恵比寿神・大黒天・毘沙門天・弁才天・福祿寿・寿老人・布袋尊。この七柱の神様を七福神と呼ぶことは皆さんよくご存知だと思います。

では、いつ頃からこの七柱になったのか？室町時代の終わり頃といわれていますが実はよく分かりません。吉祥天・猩猩・稻荷などが入っていた時代もあったそうです。

それはともかく、ご出身地を調べてみましょう。

恵比寿神 イザナギ、イザナミの子の蛭子命（ひるこのみこと）か、大国主命の子である事代主神（ことしろぬしかみ）とされています。そのため、同じえびすを祀る神社でも、場所によってご神体は異なります。えびすとは夷・戎・胡で外来の者を意味します。日本の神様ですが**えびす**です。水と関係が深く、大漁を祈願したり後世では商売繁盛をもたらす神として信仰されたりしています。1月10日は十日恵比寿。



大黒天 大国主命と混同され習合して信仰されていますが、元々はヒンドゥー教シヴァの憤怒の化身で、「大暗黒天」とも呼ばれ青黒い身体に憤怒の表情をした神様です。破壊と豊穡の神として信仰され、後に豊穡の面が残り、食物・財福を司る神となりました。毘沙門天・弁才天と合体した三面像もあり、これを三面大黒天といって戦国武将に信仰されました。

毘沙門天 仏教の護法神で「すべてを一切聞きもらさぬ知患者」の意味多聞天の別名があります。四天王（持国天・増長天・広目天）の1つとして須弥山の北方を守護しています。日本では、俗に勝負事の神として信仰されていたりもします。戦国武将上杉謙信が熱心な信者で「毘」の字を旗印にしていた話は有名です。



弁才天 元来は古代インドの河の女神であるサラスヴァティー。経典に沿って訳せば本来「弁才天」ですが、日本では「才」が「財」の音に通じることから財宝神としての性格が付与され、「弁財天」と表記することも多くあります。音楽神とされ、福德神、学芸神など幅広い性格をもっています。

福祿寿 幸福・封祿・長寿の三徳を具現化した道教の神様。宋の道士天南星の化身や、南極星の化身（南極老人）とされ、七福神の寿老人と同体、異名の神とされることもあります。背が低く、長頭で長い髭をはやし、杖に経巻を結び、鶴を伴っている像として描かれることもあります。



寿老人 道教の神様で南極老人星（カノープス）の化身。なかなか見ることが困難な緯度にあるため、この星を見た者は長寿になるという伝説が生まれました。酒を好み赤い顔をした長寿の神とされ、頭巾をかぶった好々爺の姿で描かれています。

布袋尊 七福神中唯一の人間です。唐の時代の末、浙江省に実在したとされる（諸説あって不明）異形の僧ことで、本来の名は釈契此（しゃくかいし）ですが、常に袋を背負っていたので俗称である布袋という名で知られています。生前の様々な逸話や不思議な最期のせいで、布袋は弥勒の化身なのだという伝聞が広まったと言われています。中国では、その後弥勒の姿形は日本の布袋の姿形となり、寺院の主要な仏堂の本尊に、弥勒仏として安置されるのが通例となったそうです。京都府宇治市の黄檗宗本山萬福寺には、三門と大雄宝殿の間に設けられた天王殿の本尊として、四天王や韋駄天と共に布袋尊形の金色の弥勒像が安置されています。



すこやか&スマイルへのご意見・ご感想をお待ちしています。また、こんなことが知りたい、こんな特集をして欲しい等ご要望もお待ちしています。今年もよろしくお祈りします。

FAX : 075-200-1034 E-mail : care-life@zeus.eonet.ne.jp

